

<様式>

学 校 名	山形市立明治小学校	校 長	横山 聡
	山形市大字灰塚454 TEL 681-81473 FAX 684-6879	研究主任	鬼島 恵美
研 究 主 題	<b>試行錯誤しながら追究し、ともに学び合う子どもの育成（1年次）</b> <b>一遊びや生活、学びのつながいを意識して一</b>		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>本校の学校教育目標は、「学びを生かして『わたしの世界』『わたしたちの世界』を豊かに創造しようとする子ども」である。明治小の子ども達が、仲間と心を通わせながら、学びを積み重ね、学んだことを生かし、自分たちで考え、学びを、生活を、学校を創っていくことをめざしている。</p> <p>そこで、研究主題を「試行錯誤しながら追究し、ともに学び合う子どもの育成」とし、自分たちの生活や経験の中から課題を見出し、共に解決しようとしながら、更にこれからの自分たちの生活や学習への活用力を高めるような教育活動を展開していきたいと考えている。</p> <p>研究主題に掲げた「試行錯誤しながら追究し」とは、「授業の主人公は子ども」であるという学習者中心の視点を第一に、「やってみたい」「分かってほしい」「解決してほしい」など、子ども自身に湧き上がった思いを原動力として主体的・協働的に問題解決に向かう過程で見せる子どもの姿を指している。こうした自分の思いをもとに探究を続けていく姿こそ、資質・能力を発揮しながら学びを深めている姿だと捉えている。また、「ともに学び合う」とは、6年間同じ仲間と学んでいくことの強みを生かして、失敗や間違いをお互いの学びのチャンスと捉えられる温かく安心した雰囲気、力を貸したり貸してもらったりする共生的な関係の中で学びを深めていくことと捉えている。</p>		
研 究 の 目 標	<p>主体的に学ぶ子どもを育成していくために、全ての教育活動において、「試行錯誤を生み出すための工夫」「学びをつなぐための工夫」の2つの視点に沿って日々の教育活動における実践を重ねていく。そして、子どもの育ちに結びつく教師の意識の持ち方や支援の方向性を追究していく。</p>		
研 究 の 重 点	<p>この研究主題を実現するために、今年度は以下の2点を研究の視点として実践していく。</p> <p><b>視点1「試行錯誤を生み出すための工夫」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の本質を踏まえ、どのような「見方・考え方」の育成をめざすのかについての吟味</li> <li>・子どもが自分ごととして捉え、解決の見通しがもてる課題の吟味</li> <li>・粘り強い解決に向かうためのふり返りの活用や教師の出</li> </ul> <p><b>視点2「学びをつなぐための工夫」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・マネジメントを活用し、学びを生活場面や他の教科につなぐ</li> <li>・自分と友達の考えをつなぐ。つなぐための言語力の育成。</li> </ul> <p>（2つの視点においては、有意味学習、オーセンティックな学習、明示的な指導を意識していく）</p>		

## 1 研究の内容および方法

### (1) 全ての教育活動を研究の視点で考える。

子どもが育つ学習や活動にするために、「試行錯誤を生み出すための工夫」「学びをつなぐための工夫」の2つの視点に沿って活動内容や支援の在り方などについて検討し、全教職員の共通理解を図る。

### (2) 研究の日常化を図る。

子どもを育てるには、日常の積み上げが大切である。そこで、教師自身がテーマや課題をもち、日々の授業実践や教育活動に取り組む。また、育てたい子ども像を明らかにし、カリキュラム・マネジメントをいかしていく。

### (3) 授業研究会を通して、子どもの姿から学び合う。

#### ① 事前研究会

授業研究部の各部会で行う。大まかな単元構成をもとにして、その単元で子どもにどんな力をつけたいのか、研究の視点に沿って検討し、学び合う。

#### ② 研究授業と事後研究会

研究授業の中では、子どもの発表やつぶやき、表情、文章など、あらゆる角度から学ぶようにする。その姿から、教科のねらいは達成できたのか、単元構成のあり方や教師の支援や個に応じた指導の手立てなど、事後研究会で出し合い、学び合っていくようにする。授業者は「この授業で見てもらいたいところ（力を入れてきた所）」を授業前に提示し、その視点を中心に話し合えるようにしていく。デジカメなどを活用して、子どもの姿を記録にとり、どんな場面でどんな学びをしていたのか、子どもの姿をもとに話し合う。

#### ③ 授業研究会は一人一回行い、研究を深める。

教科は特定せず、各教科から子どもの姿を見ることで研究を深めていく。教科を特定しないことで、様々な教科の本質について教師が学び合えるようにしていく。ただし、教科の核となる国語は、年間授業研の1つに入れていく。また、日常的に授業を見せ合ったり、子どもの姿について語り合ったりして、子ども理解や授業の質の向上等を図っていく。

### (4) 子どもの育ちに関する研修会の設定。

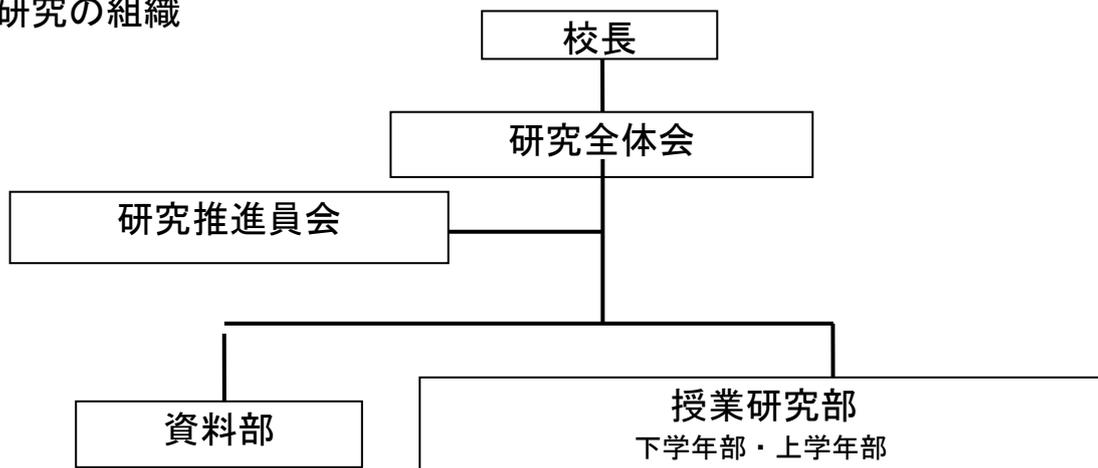
① 児童理解や学級経営などに役立てるために、講師を招いた研修会を開く。

② 子どもが育つ学校行事や活動にするために、実践の中で見えてきた子どもの育ちや支援の仕方、教師の戸惑いなどを出し合い、共通理解を図るとともに互いの研修を深める。

### (5) 学んだことを共有し、次につなぐ研究だより

・研究だよりと研究集録「ゆう」を発行する

## 2 研究の組織



### 3 研究構想図

学校教育目標

学びを生かして「わたしの世界」「わたしたちの世界」を豊かに創造しようとする子ども



「試行錯誤しながら追究し、ともに学び合う子どもの育成」(1年次)

一遊びや生活、学びのつながりを意識して一

○めざす子ども像 ・試行錯誤しながら探究する子ども ・ともに学び合う子ども

#### 試行錯誤を生み出すための工夫

主体的・協働的に解決に向かう過程で見せる姿を、資質・能力を発揮しながら学びを深める姿と捉え、活動を構想する。学び合い、考えを深める授業になるように、湧き上がった思いや自分の考えを言語化していけるような「ことばの力」をつけていきたい。

#### 学びをつなぐための工夫

すぐには、答えが見つからない問題もある。学びは連続している。そこで、人と学び合って解決したり、既習事項を紐解いたり、他教科と合わせたりなど、学びをつないでいくことで、学びを深めていきたい。

- (1) 自分ごととなる学習課題の設定
  - ① これまでの学びや、自分の生活、経験から学習課題をつくる
  - ② 課題の吟味  
「解決したい」「こうすればできそうだ」といった子どもの強い思いを引き出し、解決の見通しがもてる課題づくり
- (2) 粘り強く解決しようとするために
  - ① 自分の考えをもち、追究する時間の保障
  - ② 教師の出と待ちを意識する  
・個別の支援の想定、問い返し など
  - ③ ふり返りを生かす

- (1) 学級カリキュラムの作成
  - ① 生活や遊びから学習へつなぐ
  - ② 資質・能力で、教科と教科、教科と特別活動や学校行事をつなぐ
- (2) 子ども同士をつなぐ
  - ① かかわることのよさを実感し、安心して過ごせる仲間づくり(失敗や間違いは学びのチャンスだと捉え、いつでもきき合い、助け合える雰囲気)
  - ② 自分の考えと友だちの考えをつなぐ
  - ③ 個の学びを集団の学びへとつなぐ

研究会では子どもを学びの中心に据え、子ども姿(事実)に学び授業や教師の在り方を考える

- 授業中の細かな事実からもう一度考える
- 子どもの学びのおもしろさや豊かさが見える場面を取り出す
- 授業者の的確な判断や居方を語ることで、教師の対話への感受性を高めていく

研究収録は学びのリレーとして

事後研後、記録者が研究だよりを書き、授業者は実践、事後研を終えてのふり返りを書く。

研究の計画

		研究全体会	推進委員会	授業研究会	主な内容
4月～5月					前期学級カリキュラムの作成
4月 5日	火		①		今年度の研究の方向性の検討、指導案形式の検討、授業研究会の持ち方
4月14日	木	①			研究全体会
5月 9日	月				カリキュラム・マネジメント年間計画
5月26日	木				授業研究会① 4年生
6月27日	月				授業研究会② 6年生 指導主事招聘
7月 7日	木				カリキュラム・マネジメント1学期ふり返り
7月14日	木				授業研究会③ 2・3年生 指導主事招聘
8月～9月					後期学級カリキュラムの作成
9月 1日	水				授業研究会④ たんぽぽ1組
10月5日	水				市公開研究会
10月20日	木				授業研究会⑤ 5年1組
11月10日	木				授業研究会⑥ たんぽぽ2組
11月24日	木				授業研究会⑦ 1年1組
12月 8日	木				授業研究会（予備日）
12月15日	木				カリキュラム・マネジメント2学期ふり返り
12月 日	木		②		2学期の反省と研究紀要について
12月 日		②			2学期の反省と研究紀要について
2月			③		研究の成果と課題、来年度の方向性について検討
3月		③			研究の成果と課題のまとめ、来年度の方向性